

新旧対照表

旧	新
<p>4 地域再生計画の目標</p> <p>具体的には、本地域再生計画の推進により、今後5年間において支援措置事業である「地域再生人材創出拠点の形成」の提案事業「はままつデジタル・マイスター（HDM）養成プログラム」の実施により、高度部材・基盤技術産業の中核リーダーを2年目から毎年10名、計40名養成する。また、こうした中核リーダーが中心となって「地域新生コンソーシアム研究開発事業」「地域新規産業創造技術開発費補助事業」を積極的に活用し、研究開発や実用化技術開発を行いやすい環境づくりに努め、地域企業の成長・発展を支援することにより、工業の事業所数・従事者数・製造品出荷額等の減少傾向を食い止め、5年後には事業所数6,500超、従業者数100,000人超、製造品出荷額等2兆7,000億円超の達成を図る。</p>	<p>4 地域再生計画の目標 (2ページ5行目から8行目を追加)</p> <p>具体的には、本地域再生計画の推進により、今後5年間において支援措置事業である「地域再生人材創出拠点の形成」の提案事業「はままつデジタル・マイスター（HDM）養成プログラム」の実施により、高度部材・基盤技術産業の中核リーダーを2年目から毎年10名、計40名養成する。<u>さらに、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」事業「ものづくり教育はままつ10年構想」において、毎年プログラムに参加した若手技術者25名を創造的工学技術者として育成するサイクルを確立する。</u>また、こうした中核リーダーが中心となって「地域新生コンソーシアム研究開発事業」「地域新規産業創造技術開発費補助事業」を積極的に活用し、研究開発や実用化技術開発を行いやすい環境づくりに努め、地域企業の成長・発展を支援することにより、工業の事業所数・従事者数・製造品出荷額等の減少傾向を食い止め、5年後には事業所数6,500超、従業者数100,000人超、製造品出荷額等2兆7,000億円超の達成を図る。</p>
<p>5-3-1 基本方針に基づく支援措置を活用する事業</p>	<p>5-3-1 基本方針に基づく支援措置を活用する事業 (4ページ19行目から5ページ6行目を追加)</p> <p>②B0802 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）（文部科学省）</p> <p>名称： 「ものづくり教育はままつ10年構想」</p> <p>実施主体機関： 国立大学法人静岡大学工学部創造教育支援センター</p>

実施予定期間： 平成18年10月～平成21年3月

連携組織： 静岡県、静岡県教育委員会、浜松市、
浜松市教育委員会、地域小中高等学校、浜
松商工会議所、地域企業等

活用方策：

創造科学技術立国を目指す我が国において、若者の科学技術離れが危惧されている。小中高等学校における児童生徒の理科離れは、「ものづくり」への意識低下を引き起こし、製造企業現場では、技量不足はもとより、指示がなければ動けない技術者の増加が問題となっており、2007年以降、団塊の世代の引退による熟練技術者不足への対応ができない状況となっている。特に、当地域はものづくり産業が集積した地域であり、確固たる基礎力を身に付けた工学系卒業者と有能な若手技術者を育成することは必要不可欠である。

当プログラムは、「ものづくり」に興味を持ち工学分野への「あこがれ」を持った小中高校生、目的意識が明確で工学の基礎学力と技術的要素を持った大学生、および企業現場においてチームリーダーとして活躍できる若手技術者を育成することを目的としており、さらに10年という息の長い活動を特徴としており、創造的工学技術者の育成サイクルを確立することを目指すものである。この取組は、当地域の人材育成システムの一翼を担うものであり、県・市の自治体はもとより、教育委員会や小中高等学校の教育現場、浜松商工会議所や地域企業による産業界が一体となって取り組むものである。特に、自治

<p>②B1101 地域新生コンソーシアム研究開発事業（経済産業省） ③B1102 地域新規産業創造技術開発費補助事業（経済産業省）</p>	<p><u>体は「理数大好きモデル地域事業」との連携により大きな効果が期待できるため実施校の調整や協力体制の構築、自治体の媒体を活用した広報や周知活動、地域企業の若手技術者への参加促進などの支援を行う。さらに、文部科学省の支援措置期間の3か年終了後も大学独自で活動を続けるものであるため、地域での連携協力体制も継続して行うものである。</u></p> <p>③B1101 地域新生コンソーシアム研究開発事業（経済産業省） ④B1102 地域新規産業創造技術開発費補助事業（経済産業省）</p>
<p>7 地域再生計画の目標の達成に係る評価に関する事項</p> <p>本地域再生計画の支援措置事業である「はままつデジタル・マイスター（HDM）養成プログラム」に関しては、企業・浜松市・浜松商工会議所・静岡大学の産学官で構成する「企画・評価委員会」を設置し、フィードバックして事業成果の評価と改善を行うことで、事業の継続と地域への定着を図る。また、計画終了後4の数値目標に対する調査、評価、公表に関しては、「（仮称）浜松市産業支援センター」は「浜松地域産業支援ネットワーク会議」を発展させた形を想定しているため、地域の産業支援団体である構成7団体から組織する委員会等において、進捗状況の評価と改善すべき事項の検討を行うものとする。</p>	<p>7 地域再生計画の目標の達成に係る評価に関する事項 （8ページ5行目から8行目を追加）</p> <p>本地域再生計画の支援措置事業である「はままつデジタル・マイスター（HDM）養成プログラム」に関しては、企業・浜松市・浜松商工会議所・静岡大学の産学官で構成する「企画・評価委員会」を設置し、フィードバックして事業成果の評価と改善を行うことで、事業の継続と地域への定着を図る。<u>また、「ものづくり教育はままつ10年構想」においても、自治体・教育界・産業界で組織する「産学官理科技術教育企画評価会議」を設立し、本取組を効率的かつ適切な活動とすべく評価を行う。</u></p> <p>また、計画終了後4の数値目標に対する調査、評価、公表に関しては、「（仮称）浜松市産業支援センター」は「浜松地域産業支援ネットワーク会議」を発展させた形を想定しているため、地域の産業支援団体である構成7団体から組織する委員会等において、進捗状況の評価と改善すべき事項の検討を行うものとする。</p>